

MG-LAC 季報

第 10 号

2019 年 9 月 4 日発行

宮城学院女子大学

リエゾン・アクション・センター

(MG-LAC) 内線 268

「やってみたい」を自分たちの力で形にしよう！

■自主活動プロジェクト 活動中！

学生の自主活動プロジェクトについて、合計 22 プロジェクトより申請があり、採択が決定しました。大学後援会の助成を受けて活動するさなぎ・てびらっこプロジェクトのほか、大学と提携する国際奉仕団体の学生組織であるボランティアクラブ、他の助成等を受けて活動する自主活動プロジェクトなど、活動形態や内容も多様化し、ますます活発になっています。

今年度はのべ 332 名の学生が活動を行います。活動状況は、講義館 2 階北側掲示板やホームページ、大学祭等でお知らせいたします。顧問の先生方をはじめ、教職員の皆さまのお力添えをいただけますよう、よろしくお願いいたします。

さなぎプロジェクト（大学後援会プロジェクト助成費より助成・新規プロジェクト）

プロジェクト名	学生代表	概要	顧問
「ジェンダー研究会」	井波 瑠美紗 C 2	男女相互理解の促進・向上を目指し、学内外で討論会開催	天童 睦子
MSJC	横澤 萌佳 C 2	プロスポーツチームを取材・発信	八木 祐子
小さな図書館プロジェクト	松浦 朱里 J 1	学内に自由に持ち出し・寄付ができる本棚を設置	深澤 昌夫

てびらっこプロジェクト（大学後援会プロジェクト助成費より助成・継続プロジェクト）

プロジェクト名	学生代表	概要	顧問
算数教具開発プロジェクト	新留 ゆりか X 3	算数教具を開発し、小学生向け算数教室を実施	中込 雄治
にじいろプロジェクト	濱田 美侑 H 3	LGBT等セクシュアルマイノリティの啓蒙活動	村野 敬一郎
Sp ^o t A You (スポット・ア・ユー)	伊藤 榛花 H 3	学外スポーツチームの継続的栄養サポート	丹野 久美子
楽食プロジェクト	百々 美潮 F 2	学生食堂のオリジナルメニューを考案、販売	矢内 信昭
おいしい放課後	結城 陽菜 F 4	学生を対象にした学内料理教室イベントの実施	平本 福子
Internatioなる!?	穴戸 ありさ E 4	在仙外国人との交流企画を実施	コーリー・コービー
国際交流プロジェクト Branch	高槻 優里 C 3	在仙外国人との日本文化体験イベントの実施	J.F.モリス
SJT@MG	佐藤 海 B 2	仙台のおすすめスポットのSNS発信・リーフレット作成	宮原 育子
国際支援活動 Triangle	早坂 藍 E 3	国際支援募金活動（中古教科書の販売等）、講演会の実施、フェアトレード商品の委託販売など	八木 祐子

ボランティアクラブ（大学と提携している国際奉仕団体の学生組織）

クラブ名	学生代表		概要	顧問
宮城学院 ゴールデンZクラブ	後藤 紗英	C 3	ゾンタクラブの学生組織	ブレンダ・ハヤシ
	木村 文香	B 2	MG中高留学生への支援や、女性の地位向上を目指す活動	
宮城学院女子大学 さくらレオクラブ	佐々木 絵理	X 4	ライオンズクラブの学生組織	足立 智昭
	門間 衣澄	D 2	地域に関わる様々な奉仕活動・イベントの実施	
サークルK 宮城学院女子大学	尾形 ありさ	X 3	キワニスクラブの学生組織 子ども食堂の補助など、子ども支援	栗原 健

自主活動プロジェクト（助成なし・またはハートフルボランティアなど他の助成を受けて活動）

プロジェクト名	学生代表		概要	顧問
Save the Smile	佐々木 夏未	X 4	小学生向け防災イベントの実施 防災×サイエンス＝「ボウサイエンス」	板橋 夏樹
大原小学校ボランティア	木村 紀香	X 2	石巻市立大原小学校の学校ボランティア 日常の学習支援のほか、イベントを開催	戸野塚 厚子
にこにこキッズ プロジェクト	門馬 菜月	D 3	岩沼市で子どものあそび場づくりを行う 本学と東北学院大学の2大学連携ボランティア	志村 文隆
Food and Smile!	熊谷 里帆	F 4	県内外での防災料理教室の開催や、カンボジアでの乳幼児食支援	丹野 久美子
Heartful Sweets	小野 夏織	F 3	マクドナルドハウスセんだいにて、お菓子作りイベントの実施	平本 福子
MGPR	毛利 友紀	J 3	オープンキャンパスのキャンパスツアー、70周年映像プロジェクト	石川 隆
「しごと旅」プロジェクト	鎌田 実花	B 4	小学生向けの職業体験ツアーの企画・運営	市野澤 潤平

■自主活動プロジェクト

キックオフ研修を行いました

5月31日(金)16:30～18:00に、プロジェクトをスタートさせるキックオフ研修を開催しました。今年度の活動がより充実したものになるよう、自分たちの取り組む意味を見つめ、具体的な目標設定や行動計画を作ることをねらいとしています。

昨年度に引き続き、東北学院大学地域協働教育推進機構特任教授の松崎光弘先生をお招きし、11プロジェクト18名の学生が参加しました。参加した学生は、「先輩達から引き継がれたことではなく、自分たちの活動理由や目標を考えることができた（健康教育3年）」「学外との繋がりをつくる方法をととても考えさせられる、良い機会でした（人間文化2年）」と、それぞれのスタートを切りました。

